

## 第 28 回 津市子どもの権利条例づくり推進市民委員会 報告

日 時：平成 25 年 6 月 27 日（木）18：30～

場 所：アスト津 3 階 交流スペース 2・3・4・5

<参加者>（敬称略）

中村 潔（津市人権擁護委員協議会）、上田恵美子（三重県教職員組合津支部）、石山佳秀（フリースクール三重シュール）、堀本浩史（すばる児童館）、田中利美（津市民生委員・児童委員連合会）、増田和正（津市人権・同和教育研究協議会）、山野孝治（あそび箱 AM）、小池啓子（三重県ユニセフ協会）、千々岩 研、伊藤英明（津市人権課）、渥美 博（〃）、永合哲也（津市教育委員会事務局）、浅生伸之（津市こども総合支援室）、丹羽敬二（〃）、大野維佐子（〃）、今田浩介（〃）、苔縄義宗、田部眞樹子（津子ども NPO センター）、竹村 浩（〃）、野口寛子（〃）、市川節子（〃）、杉山静子（〃）、谷口美子（〃）、山口久美子（〃）、山下恵子（〃）、浅原直美（〃）、川喜田ひろ美（〃）

進行：丹羽（大野さんの予定でしたが遅くなるために交代しました）

●初参加の方のご紹介と自己紹介

●第 27 回市民委員会(2013 年 5 月 27 日)報告

・竹村事務局長より報告

①子ども委員会の今後の方向性について…個人の参加→組織、団体の代表として

②骨子づくりグループの整理…5 つの骨子づくりのグループに

子ども主体=大きな柱

☆子ども会議プログラムプロジェクトチーム（暫定）報告

第 4 土曜日(13：30～15：30)に定例化

会場：アスト津→まん中こども館（7 月以降）

第 20 回子ども委員会（6/22）の報告

・津商業高校から 2 名の申込み…概要版と一緒に配ったチラシを見て申込み。

・学校への働きかけ

子ども委員会に参加した子どもたちの受け皿にしたい。（例えば、生徒会）

高校へは県教育委員会を通してアポをとっているところ。人権教育課も一緒に行く。

・もっと働きかけていくところがあれば出してほしい。

●4 月の市民委員会の報告について（石山さんより）

憲法改正に賛成の動きについて話されたことが議事録に記載されていないのは何故か。

・憲法改正は権利を制限すること。抗議を伝えていく。意志を伝える。市民委員会として何かを発信していくと理解していた。

・個人として重要なことだが、その方向は出していない。

・事務局として出た意見を落としてしまったことに対して謝罪をし、議事録に追加することになった。

●骨子づくりに向けてのグループ討議について

- ・全体の理念の話とそれぞれの意見も出してもらった。そのもとになったのが1万人の子どもの声アンケート。
- ・前回の市民委員会で出された意見をもとにグルーピングして、5つのグループに分け（イメージ図を全体で共有）、この会議の前にメーリングリストに流して希望を出してもらった。
- ・グループは固定化していない。変化していくこともOK。
- ・現場から出たもので進めていくと「子どもの権利条約」の4つの柱が抜けていくのではないかと。「子どもの権利条約」を考えるグループを新たに付け加えては。
- ・居場所に関するグループで余暇、遊びと並んでいるというところに違和感を覚えた。単に遊ぶための居場所ではなくて、遊びも含めた学びの場であってほしい。
- ・命が抜けていると思った。今回は部分から入っている。点で集めているので、いっぱい落とすことになる。
- ・骨子としては、項目はどれくらい出てくるか。いくつくらいか。
- ・骨子と理念の違いは？
- ・盛込んでいくものを出す。条文は専門家に。
- ・市民委員会が作ると思って参加していた。
- ・専門家に渡す前に市民の言葉で作っていく。
- ・時間的に焦っている。
- ・5つあるグループに加えて、⑥グループとして4つの柱(生存、発達、保護、参加)から考え、突き合わせるのはいかがでしょうか。
- ・事務局としては、グループ名は強引だが、5つのグループに組み込まれている。通したところでまとめたグループである。
- ・4つの柱をグループに当てはめていく。
- ・自分のいくグループを決定しているかどうか。
- ・4つの柱—権威を感じる。そこに組み込めないか。
- ・条約の中に位置づくことをつかめる。条約の理念の部分につながっている。
- ・実感と理念が結びつくものを作っていけないかと思っている。
- ・難しい提案・・・理念と実践が結びつかない
- ・それぞれのグループで、4つの柱を関連させて話す。
- ・とりあえずグループに分かれて話してはどうか。
- ・①～⑤グループは実践の中から出したもの。理念を加えてすすめてはどうか。
- ・感覚的に入っている。意識しながらすすめてはどうか。
- ・地域に根差した活動をしている。子どもたちにとっていいものであること。

●グループに分かれて話す。グループからの報告。(グループ名はとりあえずです)

①子ども参画&主体としての学びグループ   メンバー：苔縄、永合、竹村、杉山

発達—主体として学ぶ（一方的に教育される存在ではない）

教える側：子どもの判断。自分はどうか成長したいのか、生きたいのか？

参画   選ぶ→自己決定

今日の話し合い全体では決められないよ！

どうして？自分たちは決められるよ

参画とは何か？

参画するための必要な条件？

主体、あきらめている

場

## ②自己肯定&地域社会・環境グループ

メンバー：渥美、伊藤、上田、山野、大野、谷口

感じていること（個々）

先生、大人ほめて受け入れていく。

難しい。相手（子ども）を受け入れてない

コントロールしようとしている。

ありのままを受け入れること。存在。

学校教育・・・チームスポーツができないと決めつけていた。

ダブルス程度。先生、大人の意識改革に

## ③大人の役割・子育て（守られる&子育ての保障）グループ

メンバー：田中、小池、丹羽、川喜田、市川

現状問題点

**虐待** ⇒自分の地域の子どもたちを守りたいが、情報をもらえない。

民生委員（知らされてない）← 保健センター（知っている）

地域、子どもを如何に守るか → **親**

子育て→ 幼～小

**発達** 年齢に応じた子育ての保障

年齢でないひとりひとりの個性を大切に

生きにくい時代だが地域で育てていきたい

どう守るか難しい ⇒ **生存**につなげる

## ④遊び・余暇・居場所グループ

メンバー：中村、堀本、増田、千々岩、今田、田部、浅原、山下

遊び…子どもの成長にとってあたり前が必要なこと 学び

いじめ…昔のいじめと違ってきている ] → 対応のしかたが変わってくる  
非行

⇒条約の理念「子どもとは？」

・知識ではなく生身の子ども

・大人同士でシェアを

**発達** **参画**

居場所…ただいるだけではない。生きる **生存** **命**

・自己決定 ・参画 ・条例の根幹をシェアできる ・知識ではなく

⑤自己決定・支配しないされない関係性グループ   メンバー：石山、浅生、野口、山口

理念・骨子 ⇒ 条例づくりに結びつくのか？

自己決定…自分たちは？

子どもたち―「周り」があつての自己決定

親の支援等

親、他人との信頼…信頼してもらえば自己決定できるのかな？（場の保障）

支配されない、序列がない   生きる   発達   信頼される関係

全体共有

- ・限られた時間の中でゴールを意識する。全体のスケジュールをみんなで作ると安心する。
- ・見通しの共有は大事なこと。少なくとも納期が迫っている。  
理念 → 骨子 → （条文） 章 → 条
- ・グループの問題についてはコアで預からせてもらう。
  - ①6つ目として、理念、4つの柱のグループを考える。
  - ②5グループで理念（前文）を強化する。
  - ③補完する。（保護、生存）

●新体制について

☆広報戦略室：メンバーは各グループから出してはどうか

- ・理念や骨子を伝えるだけの役割？
- ・広報の役割をどう考えるか。目的、骨子を伝えるならグループでいい。  
発信する：まずは市民がやっていることを発信する。  
切り口：特徴、分野、活動の種類
- ・会議の内容の要点に絞って発信。
- ・メンバーは？団体（分野による切り口）から？グループから？ミックス？・・・次回以降はつきりさせる。

☆子ども委員会チーム：新メンバーは？

- ・チームを広げる。新たに現場の人に広げる。関わりたい人に申し出てもらう。
- ・広げて声かけをしてほしい。（事務局へ連絡下さい。）

●概要版、子ども委員募集チラシ配布完了の報告とお礼。

●次回市民委員会

2013年7月23日（火）18：30～

会場：津市まん中こども館   ミーティングルーム

## 《資料》

グループでの話し合いの報告（グループ名はとりあえずです）

### ①子ども参画&主体としての学びグループ

メンバー：苔縄、永合、竹村、杉山

- ・「学ぶ」=教育とは、発達に必要な物の一つ。子どもは一方的に教育される存在ではない。前提は主体としての学び。
- ・学校の授業がおもしろくない。面白くない授業を受けて社会のことを知りたいと思うか？
- ・学校も決められたことをある程度はしなければならない。その中で子どもたちが学習する権利と言うものを考えていけないか。先生方も権利について学ぶ必要はあるだろうが、学校の中では正直むずかしい。
- ・社会見学の話・・・行ってみたいところをリストアップ→希望を出す→最終的に先生が選ぶこの環境の中で主体的に選んでいると言えるか？自分で選択肢を広げられるのか？用意されているという感じを持つ子どもはとりあえず選ぶという感覚だろう。
- ・子どもと大人が相互に学びあう相乗効果もある。どうしていきたいかと考えた時に大人が手段を伝えると方法を教えてしまう。想定外のことが起こった時にどうしたいのか？を考える。
- ・自分らしく成長するとは？  
どう成長したいか？どんな人間になりたいか？どう生きたいか？  
自分で決める権利がある⇒自己決定
- ・子どもによって学ぶスピードも多様、学び方も多様。  
現在の学校制度の中で教師側が意識することができるかどうか・・・
- ・選択するとは？後からよかったと思える選択が良い選択なのか？
- ・社会的な理不尽を取り除いていくことが必要。子どもたちが本当の意味で豊かに育っていくことが当たり前ではない。
- ・自分が自分らしく育つ過程でかかわるすべてで守られるもの・・・4つの柱
- ・「参画」するために必要なもの・・・意見（気持ち）表明、聴いてもらえる、グループを作る
- ・「参画」できないのはそれを妨げる何かがある。
  - ・・・「参画」しても仕方がない、言っても意味がない、投げかける場が必要、  
集う場、発信する場が必要

### ②自己肯定&地域社会・環境グループ

メンバー：渥美、伊藤、上田、山野、大野、谷口

- ・大人のあり方・・・しぼりがある。  
みんなでがいい、できることがいい、ほめることがいいと思っている。
- ・チームスポーツができないと先生が決めてつけていた。
- ・固定観念がないもの、〇×がないものがある。ひとりにとりの存在価値を認める。
- ・子どもたちと向き合うこと・・・子どもたちの存在価値を認め、お互いが受け入れ合う。
- ・試し行動（逆らってくるなど）・・・関心がある。
- ・基本人に否定的な子どもたちがいる・・・大人が子どもに対して否定的。
- ・受容は大切だが・・・ほとんど受容されていないのではないか
- ・実践的なことはわかるが、骨子にするにはどうしたらいいか。

### ③大人の役割・子育て（守られる&子育ての保障）グループ

メンバー：田中、小池、丹羽、川喜田、市川

- ・子育てしている母親が孤立している。
- ・親が不安定、友達がいない。（特に転勤族）・・・虐待につながるのでは。

- ・地域での子育て。子どもを守るむずかしさ、情報を得られない。
- ・考える子ども・意見を言える子を育てる → 保護
- ・子どもの自立 → 自分に責任を持つ。
- ・発達に応じた子育ての保障 ← 子どもの個性を大事にする。

**④遊び・余暇・居場所グループ** メンバー：中村、堀本、増田、千々岩、今田、田部、浅原、山下

- ・命からがらの子どもたちは、学校はもちろん最終的に家庭という居場所からも追われて今の状況にある。
- ・あそびが本来のあそびではない状況がある。仲間とではなく、一人ひとり。外であそぶ環境も保障されていない。
- ・大人の都合で動かされている子どもの状況もある。塾通いや大人の勝手な要望に沿うしかないという子どもの状況もある。
- ・いじめの形が変わってきた。一昔前のいじめは、暴力や暴れることに象徴されていたが、今は陰湿になっていて見えにくい。
- ・いじめることで自分の存在価値をしめしているのではないか。
- ・小学校低学年でも友達を操作する子どもがいるなど巧妙化している。
- ・その現場にいる大人の一言が、子どもにどれほど影響しているのかを、大人自身が理解していない。多様な大人の関わりが大切である。
- ・大人が子どもをどうみているかという視点で学び合う場が必要ではないか。
- ・児童館のキャンプの際に食事のメニューを子どもたちが考えることをしてみたところ自分の意を言っているんだ。というところから一人ひとりが意見をだして決めた。当日のソーメンは格別で、生き生きと行動する姿がみられた。
- ・「あそび」と「余暇」が同列であることに違和感があったが、今日の話に加わって違和感はなくなった。

**⑤自己決定・支配しないされない関係性グループ** メンバー：石山、浅生、野口、山口

◆自己決定

- ・親の刷り込みから、自分で考える体験がないまま、自分で決められない子どもになっている。
- ・大きな自己決定だけでなく、日常的なことから自分で決めることが大事。

◆支配されない関係

- ・支配しない、されない人間関係とは、大人が子どもを支配する時、まず子どもの力を信頼していないことがあげられる。信頼し合える人間関係を作ることが必要。信頼するところから自己決定が始まる。信頼というキーワードを入れたい。
- ・大人が子どもを信頼するためには、子どもに試行錯誤をする権利を認めることが必要
- ・日頃から大人と子どもがコミュニケーションをとる、対等な関係性の中で議論したり出来るとうよい。
- ・子ども同志の関係の中でも空気を読んだりして、気を使っている。学校でも序列がある。序列のない社会はどうやって作れるのか。
- ・親からの刷り込みだったのか、「勉強しなさい」と言われたことがないのに、頑張っている子どもだった。親の期待にいつの間にか添っていた
- ・命、存在そのものへの尊敬の気持ちがあれば、支配したり、されたりすることはない